

祝辞

山田修

東海村 村長



先端基礎研究センターの設立30周年、誠におめでとうございます。

30年は一つの区切りですが、ここまでの歩みに改めて敬意を表します。東海村は原子力の発祥の地であり、原科研が設立されてから60年以上が経ちました。その半分以上、先端基礎研究センターがこの地において、様々な研究開発をリードし、東海村のステータス向上に貢献していただきました。これからも社会への貢献が期待され、ますます発展することでしょう。

先端基礎研究センターの研究内容については、私も全て理解できているわけではありませんが、核科学や材料科学など特に基礎研究においては、大学が主導することが一般的だと思われます。しかし、日本原子力研究開発機構の中で行うことには独自の意味があると思います。大学ができないことを日本原子力研究開発機構が担うことで、より社会や企業に近い立ち位置で活動できることになり、大学では難しい領域にも挑戦できるのではないかと思います。この優位性をこれからも継承していただきながら、更に発展されますことを大いに期待しております。

また、昨年9月には、東海村にエマルジョンフローテクノロジーという日本原子力研究開発機構発のスタートアップ企業が立ち上がりました。これは使用済核燃料の元素分離技術から発展し、レアメタルの水平リサイクルに貢献する技術です。このように、研究成果が社会に貢献する技術として発展する成功事例も出てきているところであります。

最後に一つお願いがあります。今日の会場も男性が多いようですが、もう少し女性の研究者が増えていただければと思います。皆様方には、新しい才能を発掘していただき、若い世代や女性の方々が先端基礎研究の分野でも活躍できるように、共に盛り上げていただければ幸いです。

結びに、先端基礎研究センターの今後の更なるご発展と、本日お集まりいただいた皆様方のご健勝をお祈り申し上げ、お祝いの言葉といたします。本日は、誠におめでとうございます。